

(別紙1)

内部質保証シート（機関・学位プログラム用シート）

2025年度の実行方針および重点課題（学長／内部質保証推進委員会）

- ①学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化を図るため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された知識・技能・態度等の学習成果の可視化にとどまらず、その具体化と継続的な改善に取り組む。
- ②内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。
- ③内部質保証シートと自己点検・評価報告書の一元化を図る。
- ④内部質保証の標準的スケジュールに改善等を行い、PDCAサイクルの円滑化を図る。
- ⑤昨年度に実施した自己点検・評価により顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択して課題解決を図る。
- ⑥大学全体の取り組みを全教職員が把握できるよう、情報共有の方法を工夫する。

- A 例年を上回る良い状況
- B 通常の範囲内
- C 要経過観察
- D 改善を要する

		～5月末まで		～6月末まで		7月 第2週		7月 第3週～翌年2月		～翌年3月末まで				
		自己点検・評価		改善計画		内部質保証推進委員会		取組状況報告		内部質保証推進委員会				
		各自点検・評価委員会		副学長／学部長／研究科長		副学長／学部長／研究科長		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進委員会				
点検項目	(責任者)	点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)		改善計画 (Plan)		内部質保証推進組織による		内部質保証推進組織による				
		評価	概要			課題	担当部署	期限	所見または助言、指示等	改善計画の取組状況 (Do)	取組の成果	進捗状況	所見または助言、指示等	公表状況
入学時	1 教育質保証	副学長	B	<p>一般選抜は GPA が高い傾向にあり、2.4～2.7 程度で安定している。一方で、スポーツ系の特別入試や一部の推薦入試では GPA 1.0～1.5 程度と低く、学習成果の差が顕著である。入学時アンケートは、第一志望率が高く、教育内容や資格取得、クラブの充実を理由に本学選択が継続している。設備やクラブの活発さに対する評価も高く、イメージとして活気や専門性の高さがある。一方で、入学前の不安は授業、学業、将来の進路、経済面などが一定割合で存在している。進学時間や一人暮らしの不安は学部によって差が見られた。在学中に力を入れたいことは、専門分野の学修、資格取得、就職活動、クラブなどが高い。進路意識は、具体的又はある程度考えている学生が多い。広報は、高校教員、先輩、家族からの情報が主であり、HPやSNSの活用も一定ある。OC参加率は高く、受験生向け情報の発信が重要である。課外活動経験は体育系クラブ所属が多く、本学の特色と一致している。高校時代の模試受験状況は進研模試が最も多い。PROGのコンピテンシー領域は全体的に高水準で安定している。特に対人・対課題の中間層が多く高水準である。</p>	<p>学力差の縮小に向けて、PROGテスト結果の活用を検討する。PROGのコンピテンシー領域は全体的に高水準で安定している。特に対人・対課題の中間層が多く高水準である。しかし、リテラシーは高水準ではないため、まずはPROGテスト結果を活用したSD研修において、教育改善の意識に繋げたい。</p>	<p>学力差の縮小に向けたPROGテストのリテラシー・コンピテンシー領域育成に向けた意識共有</p>	庶務部	2026年3月末	<p>対応の適切性を確認し、委員会において承認</p>	<p>Campus-XSの改修に向けて、DP到達度を可視化するための表示形式やシステム上の科目母数について、富士通と協議を進めた。今年度中に完了予定であるが、富士通側のシステム改修に時間を要している。</p>	<p>PROG結果の共有により、改善の意識が少しづつ高まっていると判断した。</p>	完了	<p>計画が適切に完了したことを確認した。</p>	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	2 エンロールマネジメント	副学長	B	<p>全学的に志願者数の減少傾向が顕著であり、特に2020年度以降の下落幅が大きい。受験者数や倍率も同様の推移を示してきたが、入学者数は募集定員を上回っている。このように競争率の低下が続いてきたが、2024年度から実志願者数は回復傾向を示している。しかし、編入学は、2022年度以降は編入学者がゼロで推移している。</p>	<p>全学的に志願者数が減少傾向にあり、特に2020年度以降の下落幅が大きく、受験者数や倍率も同様に低下して競争率の低下が続いている。2024年度から実志願者数は回復傾向にあり入学者数や定員は確保できているものの、今後の少子化の動向を考慮すると、志願者数の減少は中長期的なリスクである。</p>	<p>高校教員や受験生へのアプローチが固定化しており、広報手法の改善が求められる。</p>	入試部/庶務部	2026年3月末	<p>対応の適切性を確認し、委員会において承認</p>	<p>高校との協定を締結したことや学長/副学長が同窓会支部総会等へ頻繁に参加するといったアプローチを行った。また、副学長と入試部が積極的に高校訪問を行い、指定校枠の拡大や入試制度変更の説明を行う「トップセールス」を実施した。TVCMとともに、Web・SNS活用といったデジタル戦略を強化して、低コストで高い広報効果を狙った。</p>	<p>実志願者数は前年をやや下回る結果となったが、概ね昨年並みの人数を確保し入学者数も目標数に達する状況であることから、一定の効果があつたとみなしている。</p>	完了	<p>計画が適切に完了したことを確認した。</p>	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

在籍時	3	教育質保証	(1)単位取得状況 (2)累積GPA・学期GPA (3)DP到達度調査 (4)学修行動調査 (5)学生生活調査 (6)授業評価アンケート結果調査 (7)カリキュラムマップ・ツリー	副学長	C	DP到達度は、両学部ともに学年進行に伴い向上しており、大学院でも約8割の学生が認知・獲得を実感している。ただし、教育学部の4年生で一部項目が低下する傾向が見られる。 単位修得状況は3年生までで大半を終える計画的な履修が定着している。GPAはスポーツ科学部で2.0~2.5、教育学部で2.5付近がボリュームゾーンである。授業満足度は8割強と高いが、授業外学修時間が「1時間未満」の学生が約6割(0時間含む)を占め、予習・復習の不足がある。食堂・図書館・ラーニングコモンズなどの利用状況は改善傾向がみられる。一方、交通マナー、食生活の偏り、課外活動の時間負担、キャリア支援センター・教職支援センターの利用方法の理解不足がある。学生の悩み・課題は4割あり、特に進路・就職に関する不安が多い。ボランティア活動への関心は高いが、参加のきっかけ不足や時間不足がある。生活費を苦しいと感じる学生が約30%、アルバイト時間が週10~20時間を超える学生が半数以上いる。出席状況は8割以上が80%以上出席と回答だが、経済的理由やクラブ活動による時間的制約の可能性もある。講義、実技科目ともに高評価で、両学部ともに説明の丁寧さ、シラバスに準拠、施設・備品、安全性などで肯定的回答が多い。講義科目では前期と比較して後期に一部項目で肯定的回答が低下する傾向があるが、全体としては通常の範囲内で推移している。実技科目は前後期ともに高い評価である。学生の復習や主体性がどちらともいえないが一定数存在し、学修行動の個人差がある。	授業外学修時間の不足、食生活、進路不安、ボランティア参加のきっかけ不足はあるが、今年度は交通マナー(生活面の課題)の変化に注力していきたい。	マナーアップキャンペーンを春・秋と実施するとともにボランティア学生にはボランティアシップを意識してもらおうように伝える。職員と学生が一丸となっている取り組みとして啓発していきたい。	教育学部/各部署	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	交通マナーに関して、外線等での苦情は続いているため、引き続き改善・向上に向けて対応する。	交通マナーに関する啓発は小規模ではあるが、学生からの反応があり、改善に向けた意識が高まったと整理した。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	4	エンロールマネジメント	(1)離学者数・離学率 (2)休学者数・休学率 (3)留年者数・留年率 (4)出欠状況	副学長	C	退学率、休学率、留年率は全体的に増加傾向であり、背景には学修不振、生活・経済的要因、メンタルヘルスなど複数の要因が影響している可能性がある。	早期支援につながる学修支援、生活支援、相談体制の強化に向けて、必要な情報の整理を進める。	退学・休学・留年に関するデータを基に、要因の整理と支援の方向性を確認する。学修支援や生活支援、相談体制の在り方について、次年度の改善に向けた準備を進める。	各部署	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	退学率、休学率、留年率の増加傾向について、学修不振や生活・経済的要因、メンタルヘルスなど複数の要因が影響している可能性を踏まえ、支援の方向性を検討するための基礎的な情報整理を進めた。	退学・休学・留年に関する課題について、今後の支援体制を検討するために必要となる論点が明らかになり、改善に向けた検討を進めるための前提条件が整いつつある状況となった。	実施中	取り組みが継続中であることを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	5	教育質保証	(1)学位授与数・授与率 (2)卒業論文 (3)DP到達度調査 (4)卒業時アンケート (5)卒業生アンケート (6)就職状況・就職率 (7)進学状況・進学率 (8)資格・免許取得実績 (9)受賞実績 (10)UNIVASランキング	副学長	B	学位授与率は学部・大学院ともに概ね安定している。卒業論文の提出率は学部間で差があるが、必修でない学部においては提出率が限定的である。DP到達度調査では、専門性、コミュニケーション能力、主体性などの領域で高い到達度が確認され、学生の成長実感も高い。卒業時アンケートでは教育内容、教員、施設、課外活動に対する満足度が高く、総合満足度も高い水準である。卒業生アンケートでも、専門科目・実技科目の満足度、成長実感、職場での意欲が高い。就職率は学部・大学院ともに高く安定しており、進学率も例年並みである。資格・免許取得実績は継続的に成果が見られ、教員採用試験合格者数も安定している。UNIVASランキングは中位を維持しており、競技力は一定の成果を挙げている。一方で、外国語の学修状況と満足度や授業中の発言、自主的学修の取り組みが弱い傾向がある。また、就職活動の満足度や地域貢献に関する到達度は他項目と比較して弱い傾向がある。これらの項目は改善課題までとはいかないが、認識しておく必要はある。	学生個人の学修成果の可視化に向けて、現行の教学システム(Campus-XS)において、レーダーチャート等によるDP到達度の表記ができるように、改善を進める。	学修成果の可視化機能の不足により、学生自身が成長を把握しにくい状況が続いている。	教育学部/庶務部	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	Campus-XSの改修に向けて、DP到達度を可視化するための表示形式やシステム上の科目母数について、富士通と協議を進めた。今年度中に完了予定であるが、富士通側のシステム改修に時間を要している。	DP到達度の可視化に向けた基本仕様が決まり、次年度の試験運用に向けた準備が進んだ。計画より遅れはあるものの、年度内に必要な協議と仕様整理は完了し、次年度の運用開始に向けて一定の前進が見られる。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
卒業時	6	エンロールマネジメント	標準卒業生数・卒業率	副学長	B	全学として卒業生数および標準年以内卒業率は概ね安定しており、例年と同程度の水準を維持している。両学部ともに標準年以内卒業率は90%前後で推移しており、教育課程の履修管理は適切に機能していると判断できる。一方で、教育学部では近年やや低下傾向が見られ、学修行動の個人差が影響している可能性がある。大学院博士前期課程では年度による変動が大きく、研究進捗の個人差があるとと思われる。	特になし				委員会において承認			助言、指示等はないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	

外部評価委員会	副学長	C	<p>外部評価委員会から、点検結果の活用、学生の成長実感の可視化、教職員の役割分担の再整理、社会との接点強化、複数シナリオの検討など、様々な提言があった。内部質保証の体制は整備されているが、構成員間で理解度や実行度に差があるため、データの意味づけや原因分析に更なる余地がある。また、学生支援や学習支援の仕組みは整備されているが、利用しない学生へのアプローチや教員の負担増を視野に入れて、教職学で取り組むことも認識しておく必要がある。一層の教職員の役割分担の再整理と教職学協働の推進が必要である。</p>	<p>上記「5」と同様に、学生個人の学修成果の可視化に向けて、現行の教学システム(Campus-XS)において、レーダーチャート等によるDP到達度の表記ができるように、改修を進める。</p>	<p>学修成果の可視化機能の不足により、学生自身が成長を把握しにくい状況が続いている。</p>	<p>教学部/庶務部</p>	<p>2026年3月末</p>	<p>対応の適切性を確認し、委員会において承認</p>	<p>Campus-XSの改修に向けて、DP到達度を可視化するための表示形式やシステム上の科目母数について、富士通と協議を進めた。今年度中に完了予定であるが、富士通側のシステム改修に時間を要している。</p>	<p>DP到達度の可視化に向けた基本仕様が固まり、次年度の試験運用に向けた準備が進んだ。計画より遅れはあるものの、年度内に必要な協議と仕様整理は完了し、次年度の運用開始に向けて一定の前進が見られる。</p>	<p>完了</p>	<p>計画が適切に完了したことを確認した。</p>	<p>『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。</p>
---------	-----	---	---	---	---	----------------	-----------------	-----------------------------	--	---	-----------	---------------------------	------------------------------------

(別紙1)

内部質保証シート（機関・学位プログラム用シート）

2025年度の取組方針および重点課題（学長／内部質保証推進委員会）	
①	学習成果を軸に据えた内部質保証の実質化を図るため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された知識・技能・態度等の学習成果の可視化にとどまらず、その具体化と継続的な改善に取り組む。
②	内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。
③	内部質保証シートと自己点検・評価報告書の一元化を図る。
④	内部質保証の標準的スケジュールに改善等を行い、PDCAサイクルの円滑化を図る。
⑤	昨年度に実施した自己点検・評価により顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択して課題解決を図る。
⑥	大学全体の取り組みを全教職員が把握できるよう、情報共有の方法を工夫する。

		～5月未まで		～6月未まで		7月第2週		7月第3週～翌年2月		～翌年3月未まで				
		自己点検・評価		改善計画		内部質保証推進委員会		取組状況報告		内部質保証推進委員会				
		各自点検・評価委員会		副学長／学部長／研究科長		副学長／学部長／研究科長		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進委員会				
		点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)		改善計画 (Plan)		内部質保証推進に関する所見または助言、指示等		内部質保証推進に関する所見または助言、指示等				
		評価	概 括	課 題	担当部署	期 限	取組の成果	進捗状況	公表状況					
入学時	1 教育質保証	(1)入学者選抜の状況 (2)入学時アンケート	研究科長	C	(1) 昨年度の入学者選抜の実施状況であった。博士前期課程、博士後期課程ともに学内選抜入試（7月）、A日程入試（9月）、B日程入試（2月）を実施した。学内選抜・一般選抜・スポーツ選抜・社会人選抜・外国人選抜と社会のニーズに対応した多様な入試を行っている。特にB日程では社会人選抜の受験生が増加傾向にある。（2）実施していない。	学生向けのアンケートは、学生生活実態調査・授業評価アンケートのみ実施しており、入学時アンケートを実施していない	入学時アンケート実施を検討	教学部（大学院事務局）	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	現在実施している入学時アンケートは、入学式への出欠や、入学後の健康診断の受診の有無等を行う事務的な質問のみとなっているので、これらのアンケートに教育的な設問を追加できないか検討する。	大学院進学理由や研究テーマの傾向を把握できる設問を検討する。	検討中	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	2 エンロールマネジメント	(1)入学・収容定員充足率 (2)志願倍率	研究科長	A	特になし					委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
在籍時	3 教育質保証	(1)単位取得状況 (2)累積GPA・学期GPA (3)DP到達度調査 (4)学修行動調査 (5)学生生活調査 (6)授業評価アンケート結果調査 (7)カリキュラムマップ・ツ	研究科長	B	特になし					委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	4 エンロールマネジメント	(1)離学者数・離学率 (2)休学者数・休学率 (3)留学者数・留年率	研究科長	B	特になし					委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
卒業時	5 教育質保証	(1)学位授与数・授与率 (2)学位論文の水準 (3)DP到達度調査 (4)修了時アンケート (5)修了生アンケート (6)就職状況・就職率 (7)進学状況・進学率 (8)資格・免許取得実績	研究科長	C	(1) 今年度の学位授与数は、修士21名、博士1名で、授与率は修士77%、博士20%である。（修士の授与率は、長期履修学生は最終年次生のみ対象） (2) 学位論文の水準は「大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科 学位論文審査基準」に規定しており、水準は保っている。 (3) (4) (5) に関しては修了時に実施できていない。 (6) (7) 例年と同様の水準であった。 (8) 博士前期課程の専修免許状取得件数は中学校7件、高等学校7件であった。	学生向けのアンケートは、学生生活実態調査・授業評価アンケートのみ実施していない	DP到達度調査、修了時アンケート、修了生アンケート実施を検討	教学部（大学院事務局）	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	本来修了生アンケートを実施すべき時期に学生生活実態調査や進路調査などを実施しているため、これらの質問項目に学修達成度等を問う設問を追加することができるか検討	大学院での学修成果やDPの到達度を適切に把握できるよう、修了生アンケートの設問を検討する。	検討中	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	6 エンロールマネジメント	(1)標準卒業生数・卒業率 (2)離学者数・離学率 (3)休学者数・休学率 (4)留学者数・留年率	研究科長	B	特になし					委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

(別紙1)

内部質保証シート（機関・学位プログラム用シート）

2025年度の取組方針および重点課題（学長／内部質保証推進委員会）

- ① 学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化を図るため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された知識・技能・態度等の学習成果の可視化にとどまらず、その具体化と継続的な改善に取り組む。
- ② 内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。
- ③ 内部質保証シートと自己点検・評価報告書の一元化を図る。
- ④ 内部質保証の標準的スケジュールに改善等を行い、PDCAサイクルの円滑化を図る。
- ⑤ 昨年度に実施した自己点検・評価により顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択して課題解決を図る。
- ⑥ 大学全体の取り組みを全教職員が把握できるよう、情報共有の方法を工夫する。

		～5月未まで		～6月未まで		7月 第2週		7月 第3週～翌年2月		～翌年3月未まで					
		自己点検・評価		改善計画		内部質保証推進委員会		取組状況報告		内部質保証推進委員会					
		各自己点検・評価委員会		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進組織による		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進組織による					
点検項目	(責任者)	点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)		改善計画 (Plan)		内部質保証推進組織による		取組の成果					
		評価	概 括	課 題	担 当 部 局	期 限	所見または助言、指示等	改善計画の取組状況 (Do)	取組の成果	進捗状況	内部質保証推進組織による				
入 学 時	1 教育質保証	(1)入学試験区分別成績 (2)入学時アンケート (3)基礎力テスト	スポーツ科学 学部長	B	教育内容、設備、クラブ活動、資格取得などの面で高い評価を得ており、学生の志望度・満足度ともに安定して高い。進路意識も比較的高く、在学中の学修意欲も強い。一方で、授業・学業・将来に関する不安が一定割合で存在し、入学前後のサポート体制の強化が求められる。PROGテストは、コンピテンシー領域では対人基礎力が4.0前後、対自己基礎力は3.9前後で推移しており、高水準で安定している。	リテラシー領域やコンピテンシー領域の対課題基礎力に課題が残るため、課題を共有していく場を設定したい。	リテラシー領域や対課題基礎力の底上げのための課題共有が必要である。	庶務部	2026年3月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	PROGテスト結果の課題の共有については、教員向け説明会を開催し、改善事例の共有を進めている。	学生のウィークポイントを把握し、どのような改善が必要かの示唆があった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	2 エンロールマネジメント	(1)入学者数 (2)収容定員充足率 (3)志願倍率 (4)編入学生数	スポーツ科学 学部長	B	志願倍数の減少があり、2023～2024年度の落ち込んだ後、2025年度は回復した。入学者数は確保できているが、今後は志願者確保を行って、志願倍率の低下に歯止めをかけることも必要である。収容定員充足率は、毎年105～107%前後で推移しており、安定した人気を維持している。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
在 籍 時	3 教育質保証	(1)単位取得状況 (2)累積GPA・学期GPA (3)DP到達度調査 (4)学修行動調査 (5)学生生活調査 (6)授業評価アンケート 結果調査 (7)カリキュラムマップ・ツリー	スポーツ科学 学部長	B	単位修得率は85から90%範囲で推移しており、年度間の大きな変動は見られない。累積GPAおよび学期GPAは2.0から2.4台で推移している。各DPは、学年が上がるにつれて到達度が向上している。カリキュラム・時間制は、「科目選択の迷い」「時間制重視」「履修指針の不明確さ」に関する回答が多く、出席状況は「80%以上」が多数を占めるが、「60%未満」も一定数存在する。授業理解度は、「困難」「理解できていない」が一定数認められる。授業内での発表機会や学生同士の学び合いは限定的であり、「あまりなかった」「まったくなかった」が限り、教員への質問も少なく、予習・復習時間は「1時間未満」が多く、図書館利用は低く、インターネット検索に偏っている。オンライン授業の満足度は概ね良好である。ラーニング commons の認知度はあるが、利用率は低い。食堂利用は多いが混雑していることや交通マナーの指摘が多い。進路では教員志望が多いが、キャリア支援センターの利用方法が十分に理解されていない。履修評価アンケートは、講義では、説明の丁寧さやシラバスに沿った授業運営についても回答から五割の肯定的回答がある。実技では、五割から七割が肯定的回答で、特に施設や備品、安全性などである。	DPの認知度を更に上げていくためにキャリアフェスタにおいて、PROGを活用したワークを行い、DPや社会で必要なジェネリックスキルなどの能力を身につける必要性を意図付ける。これにより、学修意欲に繋げていきたい。	DPの認知度は上昇傾向にあるものの、内容理解にはばらつきがあり、学生が自分の学修成果をDPと結びつけて捉える機会が十分ではない。社会で求められるジェネリックスキルとの関連性も学生にとって理解しづらい状況がある。これらを踏まえ、キャリアフェスタにおいてPROGを活用したワークを実施し、DPやジェネリックスキルの必要性を学生自身が実感できるようにすることが課題である。	キャリア支援部/庶務部	2026年2月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	キャリアフェスタにおいて、学生向けにPROGを活用したワークを実施した。	PROGを活用したワークにより、学生がDPやジェネリックスキルと自身の能力を関連づけて理解する取り組みを行った。学生が自分の強みや課題を可視化しやすくなり、DPの理解促進につながった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

卒業時	4	エンロール マネジメント	(1)離学者数・離学率 (2)休学者数・休学率 (3)留年者数・留年率 (4)出欠状況	スポーツ科学 学部長	B	退学率、休学率、留年率のいずれも複数年にわたり増加傾向が続いており、学修継続に関するリスクが高まっている。これらの傾向は、学修不振、生活・経済的要因、メンタルヘルスなど、複数の要因が複合的に影響している可能性がある。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	5	教育質保証	(1)学位授与数・授与率 (2)卒業論文 (3)DP到達度調査 (4)卒業時アンケート (5)卒業生アンケート (6)就職状況・就職率 (7)進学状況・進学率 (8)資格・免許取得実績 (9)受賞実績 (10)UNIVASランキング	スポーツ科学 学部長	B	卒業論文は必修ではないため提出者は少数であるが、専門科目・実技科目への取り組みは熱心であり、満足度も高い。DP到達度調査では、専門性、コミュニケーション能力、主体性などが高く、学生の成長実感も高い。卒業時アンケートでは教育内容、教員、施設、課外活動に対する満足度が高く、総合満足度も高い水準である。就職率は安定して高く、進路先の志望度も高い。一方で、外国語の学修状況と満足度や授業中の発言、自主的学修の取り組み、就職活動の満足度が弱い傾向がある。また、卒業論文の位置づけが不明確である。これらの項目は改善課題まではいかないが、認識しておく必要がある。	特になし				委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
	6	エンロール マネジメント	標準卒業業者数・卒業率	スポーツ科学 学部長	B	卒業業者数および標準年限内卒業率は例年と同程度で推移しており、安定した教育成果が確認できる。	特になし					委員会において承認			助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。

(別紙1)

内部質保証シート（機関・学位プログラム用シート）

2025年度の取組方針および重点課題（学長／内部質保証推進委員会）

①学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化を図るため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された知識・技能・態度等の学習成果の可視化にとどまらず、その具体化と継続的な改善に取り組む。

②内部質保証のPDCAサイクルと一体化した中期経営計画を推進する。

③内部質保証シートと自己点検・評価報告書の一元化を図る。

④内部質保証の標準的スケジュールに改善等を行い、PDCAサイクルの円滑化を図る。

⑤昨年度に実施した自己点検・評価により顕在化した改善課題等を把握し、取り組むべき課題を適切に取捨選択して課題解決を図る。

⑥大学全体の取り組みを全教職員が把握できるよう、情報共有の方法を工夫する。

		点検項目		(責任者)		～5月未まで		～6月未まで		7月 第2週	7月 第3週～翌年2月		～翌年3月未まで			
						自己点検・評価		改善計画		内部質保証推進委員会		取組状況報告		内部質保証推進委員会		
						各自己点検・評価委員会		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進組織による		副学長／学部長／研究科長		内部質保証推進組織による		
						点検・評価 (Check)		改善課題 (Action)		改善計画 (Plan)		所見または助言、指示等		改善計画の取組状況 (Do)		取組の成果
入学時	1	教育質保証	(1)入学試験区分別成績 (2)入学時アンケート (3)基礎力テスト	教育学部長	A	教育内容、資格取得、進路支援、クラブ活動などの面で高い評価を得ており、学生の志望度・満足度ともに高い。進路意識も強く、在学中の学修意欲も高い。一方で、授業・卒業・将来に関する不安が一定割合で存在し、初年次段階での教育や進路支援のさらなる強化が求められる。PROGテストは、リテラシー領域は全学平均を上回る傾向が見られる。コンピテンシー領域では、対人基礎力、対自己基礎力ともに高水準で安定している。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	【大阪体育大学公式HP】において適切に公表されている。
入学時	2	エンロールマネジメント	(1)入学者数 (2)収容定員充足率 (3)志願倍率 (4)編入学生数	教育学部長	A	志願者数の減少はスポーツ科学部と同様の傾向であったが、2025年度は回復した。今後に向けて、安定的な志願者確保が必要。全体として収容定員充足率110～122%で推移しており、安定した入学前確保ができている。	特になし				委員会において承認				助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	【大阪体育大学公式HP】において適切に公表されている。

在籍時	3	教育質保証	(1)単位取得状況 (2)累積GPA・学期GPA (3)DP到達度調査 (4)学修行動調査 (5)学生生活調査 (6)授業評価アンケート結果調査 (7)カリキュラムマップ・ツリー	教育学部長	B	単位獲得率は90から97の範囲で推移し、全学的に高い水準を安定して維持している。累積GPAおよび学期GPAは2.4から2.8程度で推移している。各DPは学年が上がるにつれて到達度が向上しているものと4年生が低下しているものがある。カリキュラム・時期に関する不満は比較的少なく、出席状況は「80%以上」が多数である。授業理解度も理解している。授業内での発表機会は比較的多く、教員への質問や学生同士の学び合いも一定程度行われている。学習・復習時間は「1時間以上」が比較的多く、授業外学修が定着している。オンライン授業の満足度は標準的であり、授業形態の多様化に対するニーズも高い。ラーニングモダリティの利用は低い。認知度は高い。授業利用は少なく、弁当持参が多い。通路では教員志望が多く、就職支援センターの利用が比較的多い。ポフンディア活動への関心も高い。授業評価アンケートは、英検・講義とともに全体として肯定的回答が多い。授業運営、シラバス準備、施設や備品、安全性など、高い評価である。	DPの認知度を更に上げていくためにキャリアアフェスタにおいて、PROGを活用したワークを行い、DPや社会で必要なジェネリックスキルなどの能力を身に付ける必要性を認識させる。これにより、学修意欲に繋がってほしい。	DPの認知度は上昇傾向にあるものの、内容理解にはばらつきがあり、学生が自分の学修成果がDPと結びつけて捉えられる機会が十分ではない。社会で求められるジェネリックスキルとの関連性も学生にとって理解しづらい状況がある。これらを踏まえ、キャリアアフェスタにおいてPROGを活用したワークを実施し、DPやジェネリックスキルの必要性を学生自身が実感できるようにすることが課題である。	キャリア支援部/庶務	2026年2月末	対応の適切性を確認し、委員会において承認	キャリアアフェスタにおいて、学生向けにPROGを活用したワークを実施した。	PROGを活用したワークにより、学生がDPやジェネリックスキルと自身の能力を関連づけて理解する取り組みを行った。学生が自分の強みや課題を可視化しやすくなり、DPの理解促進につながった。	完了	計画が適切に完了したことを確認した。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。
	4	エンロールマネジメント	(1)離学者数・離学率 (2)休学者数・休学率 (3)留学者数・留年率 (4)出欠状況	教育学部長	A	進学率・留年率は緩やかな増加傾向、休学率は概ね安定している。大きな急増はなく、これらの項目は改善課題まではいけませんが、認識しておく必要はある。	特になし							助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
卒業時	5	教育質保証	(1)学位授与数・授与率 (2)卒業論文 (3)DP到達度調査 (4)卒業時アンケート (5)卒業生アンケート (6)就職状況・就職率 (7)進学状況・進学率 (8)資格・免許取得実績 (9)受賞実績 (10)UNIVASランキング	教育学部長	A	卒業論文は必修であり、提出率も高い。DP到達度調査では、専門性、コミュニケーション能力、主体性などが高い到達度があり、学生の成長実感も高い。卒業時アンケートでは教育内容、教員、施設、課外活動に対する満足度が高く、総合満足度も高い。就職率は高く、進路先の志望度も高い。一方で、外国語の学修状況と満足度や授業中の発言、自主的学修の取り組み、地域貢献に関する到達度が弱い傾向がある。これらの項目は改善課題まではいけませんが、認識しておく必要はある。	特になし							助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。	
	6	エンロールマネジメント	標準卒業生数・卒業率	教育学部長	A	教育学部の卒業生数および標準年限内卒業率は高い水準で安定しており、特段の課題はない。	特になし								助言、指示等は特にないため、引き続き改善・向上に努めること。	『大阪体育大学公式HP』において適切に公表されている。